

## 令和3年度第3回学校運営協議会(全日制部会)

【発送日時】 令和4年2月17日(木) 発送 3月1日集約

【発送者】

<学校運営協議会委員>

川村 幸治(学校法人大阪国際学園 学園長)、田井 秀夫(寝屋川市教育委員会 教育監)  
林 浩子(寝屋川市立第一中学校 校長)、永田 督之(P T A 会長)、北村 讓(北水会会長)、毎野 寿美子(本校 S C S V)

【資料】

- (1) 「教員の授業とその他の教育活動に関する意見書」について
- (2) 令和3年度学校経営計画の評価および令和4年度学校経営計画  
令和3年度学校経営計画の評価  
令和4年度学校経営計画
- (3) 後期授業アンケート報告
- (4) 学校教育自己診断 報告
- (5) その他 の報告
  - ①人権に関する取り組み
  - ②みらいPT
  - ③食堂プロジェクト
  - ④スタディサプリ
- (6) 書面によるコメント
  - 学校経営計画
    - ・コロナ禍において様々点で取り組みが難しい中であつたと思うが、粘り強く実施することで教員間に共通認識が育まれていくことを考える。
    - ・1人1台端末について日々更新してよりよい教材作りが大切である。

- ・学力向上に向けて、ICT 機器や講習・補習の取り組みは評価できるが、来年度の観点別評価のスタートに向けてどの程度準備ができていくか気になります。今回の新学習指導要領では学力ではなく「資質・能力」の要素を学習の中でどう見取ることが重要だと思います。納得と信頼の学習評価をどうつくるか、全教員でおさえる必要があるかだと思います。
- ・伝統校としての小中学生や保護者の憧れの存在である寝屋川高校ですが、生徒会活動等により、市内の中学生との連携を深め、より身近に感じることができるよう取り組みが進み、情報発信が進んでいけば、寝屋川高校のブランドが高まると思います。

#### ○授業アンケート

- ・自由記述欄のコメントを精査して、妥当と思われるものや実現可能なものから改善していくことが望まれます。

#### ○学校教育自己診断

- ・教員数の回答率の上昇に向けて仕組化が必要だと思います。
- ・生徒も保護者も「入学してよかった」の項目が上昇していることは学校全体の努力の成果だと思います。また、「寝屋川高校生であることを誇りに思う」の項目の向上は大きな特徴であり、このことを外部にも発信していくことがよいと思います。
- ・個人的な指導に関するものはポイントが高いようですが、組織としての目標など全体に関するもの、観点別に評価など新しいものに抵抗がある印象です。
- ・家庭学習の数値が課題である。

#### ○人権に関する取り組み

- ・多様な価値観に触れる機会は、思春期青年期の生徒たちにとって、今後の可能性を考える貴重な機会だと思います。生徒の感想文から取り組みの成果が表れていることが伺えます。継続を望みます。
- ・経験の浅い教員が増える中、人権に関する教員の資質向上が喫緊の課題となっており校内研修はもちろん、教育委員会主催の研修等による教員の資質向上が必須となってくると思います。

### ○みらいPT

- ・参加している教員の意識を全教員に広めていくことが今後の寝屋川高校の力になっていくものだと思います。
- ・意識ある先生1人1人が学校の課題について考えを出し合い、忌憚のない意見を話せる場を持つという、まずはその行動力とエネルギーに感服しました。こういった場がミドルリーダーを育て、新たな寝屋高の可能性を輝かせていくと思います。是非とも続けていただきたいと思います。

### ○食堂プロジェクト

- ・生徒会主催で、全日制生徒と定時制生徒の交流を図り、社会福祉法人と連携するなど全日制、定時制併設の高校にしかできないユニークな取り組みであると思います。

### ○スタディサプリについて

- ・自学自習の契機とするにはよい取り組みだと思います。一方で普段の教員の授業方法との差について戸惑う生徒がいるかもしれませんが、「メインデッシュ」は日頃の先生方の授業であり、スタディサプリは「前菜」であり、「デザート」的なものになるのだと思います。